

# ラオスのこども通信

45号

2009年 4月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603



ສະມາຄົມ  
ຮ່ວມນັກໃຈ  
ກັບເດັກນ້ອຍລາວ

## 特集 ルアンパバンのお正月 私が子どもだったころ...2

プロジェクトの動き

読書推進の活動が、地域で自主的に進められるために....4

国内の活動/イベント.....6

国内の活動/事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん.....8

## ラオスのお正月

ラオスでは4月にピーマイを迎えます。ピーは「年」、マイは「新しい」でピーマイとは新年を意味します。お釈迦様を敬い、そして賑やかに水をかけあって祝います。「ラオスのこども」も東京で毎年、パーティを行っています(水はかけません)。



ルアンパバンのピーマイ

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

## ルアンパバンのお正月

### 私子どもだったころ——緑川チッタポオンさん

ルアンパバンで生まれ育ち、結婚して日本に住んで9年というチッタポオンさん。世界遺産となったルアンパバンは、今や外国からの観光客で賑わいますが、20～25年前、小学生だったころの静かな古都での暮らしぶりとお正月について話していただきました。

#### チッタポオンさんと家族

7人家族（祖母、父、母、兄、チッタポオンさん、妹、弟）。

お父さんの職業は船で荷物を運ぶ仕事。当時、ヴィエンチャンとの道路の状況がよくなく、船便が活発でした。下流のヴィエンチャンには塩を、ヴィエンチャンからは米などを運び、上流のチェンコン（タイ）からは洋服などを運びました。自家消費のための畑や田もあって、インゲン、ピーマン、きゅうり、小松菜、唐辛子、なすなどを作っていました（ルアンパバンはクレソンが有名ですが、山のきれいな水のところでないと育ちません）。

また、チッタポオンさんの家では、米の焼酎（ラオラオ）も作って、ルアンパバンで売っていましたが（お酒の製造販売は税金がかかり、許認可制）。小学生のチッタさんは、お米を洗う手伝いをしたそうです。

おばあちゃん子で、おばあちゃんはチッタポオンさんを外に出したがらず、地元の有名なシントーン寺にさえ中学生になるまで行ったことがなく、メコン川も、兄弟や友だちは行くのに、行かせてもらえませんでした（日本でいえば、浅草に住んでいるのに浅草寺に行ったことがないような）。「おばあちゃんはそのまで、私を大切にしてくれました」と振り返ります。

#### ラオスのお正月とは——

古代メソポタミアに由来する天文学で太陽の見かけの通り道である黄道に十二宮（十二星座、十二支）が並び（さらに細かく分けたのが二十四節気）、その起点となる春分点である白羊宮（おひつじ座、干支では子・ね）に太陽が移る（ソルカーン）と新年を迎えます。4月中旬にあたり、雨と豊穡への願いにお釈迦様を敬う心が重なったものがラオスのお正月なのでしょう。

#### ●新年を迎える準備

学校はお正月の前から休みになり、全部で約1週間の休みがあります。

ラオスのお正月は、大晦日から始まる3日間です。大晦日には大掃除をします。悪いものをとばして、良いものが来るように、おめでたいときに使うドーククの葉っぱや花でお払いをします。

そして、その年に着ていた服を家族ひとり1枚ずつメコン川に流して、病気になるないように、悪いものを払います。爪も切って流します。

#### ●干支の動物を描いたトープンで運勢を占う

大晦日にはトープンを買ったり、売ったりします。トープンは干支の動物を紙に描いたもので、売るときは、1週間くらい前から作ります。子どもたちは色を塗ったりします。

ふつう、家庭では作りませんが、私の家にはランパー（スタンプ）があったので、50枚ぐらい作りました。十二支のもの8つと動物のものがあります。ルアンパバンは8つの動物のほうで今年の運勢占いをします。

男性は上から、女性だと下から、年齢（数え年）の数だけ数えていって、その動物で占います。

例えば、20歳の女性なら、下から数え、折り返し、さらに折り返し、20番目の動物がその年の自分ということです。

- ・シンカム(黄金の獅子)・象：とてもよい
- ・虎：よい
- ・ナーガ(龍)・猫：あまりよくない
- ・牛・ガルーダ・ねずみ：よくない



トープン。売られているものは、上手に描かれたものもあれば、そうでないものもあり、印刷も手描きもあります。

●お年玉は大晦日からもらえる

午後になったらメコン川沿いにトップパサーイ(トップ：叩く、パ：仏様、サーイ：砂。砂を叩いて山の形にした仏様)を作って、トープンを刺して、きれいに飾ります。悪い運勢だったらそれが起きないように、良い運勢だったらもっと良くなるように、という願いをこめて。日本でおみくじを結ぶように。砂山は、友だち同士で作ることが多く、子どもの遊びの一つでもあり、村でひとつの大きいものを作ったりすることもあります。

お年玉は、大晦日からもらえます。お正月の朝に遊びに行けるように。

お正月の間は、毎日お年玉をもらいます。両親から1日5キップ。今でいうと2万キップ(200円)くらい。当時10キップもらえるのはすごくお金持ちの家の子でした。

●新年のお祝い

大晦日の翌日は元旦ではなく、ムーナオ(間の日)といって、カオトン(もち米をバナナの葉で包んで蒸したチマキ)などお供え物を準備する日があります。翌朝、新年を迎えると、お供え物を持って、お寺をお参りします。お寺では仏像が年に1

回外に出され、人々は水をかけ、そこからしたた水を少し自分の頭にもつけます。お寺参りは複数(奇数。7とか9とか)を回ると良いとされます。

お祝いの儀式、バーシーは、それぞれの家が少しずつ時間差にして行い、村の人どうしが、それぞれの家をまわって、いっしょにできるようにします。

おめでたい料理は、ルアンパバンではラープです。ラープドゥワイ(幸福)といって、魚でつくるラープがいちばん縁起が良いとされます。日本では鯛がおめでタイですね。

バーシーの後は宴会です。即興で掛け合って歌い、相手が負けるまで歌う、カップラムをします。

元旦の夜、子どもから親にお花とお水をあげます。ラオスの人は、大切な人に水をかけます。1年間の感謝であり、悪いことをしたらそれを許してもらうためにゾムマーの儀を行います。親は許すしるしに子どもの手首に糸を巻いて、お年玉をあげます。こうして、ラオスの1年が始まります。



プーニュー(人間の祖先と  
言われています)

< 勉強会に参加しませんか? >

「ラオスのこども」では、第2日曜日の午後、勉強会を開いています。チッタポンさんのお話も勉強会で行われたものです。

2009年5月は、「ラオスの教科書+文字カルタづくり」の内容で行う予定です。どなたでも参加いただけます。参加ご希望の方は、事務局(電話03-3755-1603)までご連絡の上、おこしください。お待ちしております。



1月の勉強会の様子



2月の勉強会の様子

## 読書推進の活動が、地域で自主的に進められるために

子どもたちが読書に親しむ機会を増やしていくには、本を学校に届け、先生に図書の管理・活用のトレーニングをするとともに、個々の学校自身が維持発展させていける、自立的なしくみを整えることが必要です。「ラオスのこども」はJICAの支援を受けて2005年12月から2008年12月の3年間、読書推進運動の自主的運営のための拠点づくりを、4県（ヴィエンチャン、ボーケオ、セコーン、チャムサパック）で取り組みました。

### ●学校図書の利用の状況

学校への図書配付後の課題の一つは、いかに継続的に活用されるかにあります。今回の取り組みでは、各校が自らの図書の利用状況を正しく把握するための記録（モニタリングデータ）を整えるようになることも大きなポイントでした。

- ・ 1日10名以上の生徒が図書を利用 70%
- ・ 1日10名以上の生徒が図書を借りる 57%
- ・ 地域住民に図書を開放 69%

（4県359校からの配付セミナー後のアンケート回答より）

なお、ボーケオ県、セコーン県の対象校は、小規模校が多く、ボーケオ県は42%、セコーン県は18%が教員1名の学校でした。

### ●各校で工夫しながら利用

学校に図書を配付する際、以前は図書箱や図書袋など、本を維持管理しやすい形にしていたのですが、図書箱・図書袋がなくても独自で図書の設置・管理をしている学校があり、そういった学校は他の学校より積極的に図書を利用していました。そこで、今回は、段ボール箱に入れるだけで、維持管理の方法は各校に任せることとしました。その結果、先生や保護者が竹で書架を作ったり、座ってくつろいで読めるようにゴザを保護者が寄付するなど、各校で工夫しながら利用環境が整えられていきました。

- ・ 生徒が図書の活動を手伝っている学校 80%
  - ・ 週3日以上、読書の活動を実施している学校 65%
- （ボーケオ県24%、セコーン県51%、チャムサック県64%、ヴィエンチャン県87%）

（配付セミナー後のアンケート回答より）

ボーケオ県では校舎が吹きさらしのような状態であったり、本を置けない学校が多く、63%が学校以外の場所（校長の自宅など）に保管しています。学校での週3日以上活動があまりできていないのは、そこに大きな理由がありそうです。な



学校が独自で開設した図書室

お、配付時点での調査では、週3日以上利用している学校は全体で17%でしたが、配付セミナー後65%に伸び、読書活動は活性化しているといえます。

### ●地域で学校に図書を配分するしくみを整備

これまで、学校図書室に本を補充するには、政府機関であるラオス国立図書館と当会からのルートがほとんどでした。

当会が永遠に支援し続けることはできないので、県内で学校と地方行政とで自立的に補充ができるしくみを作ろうと、ラオス初の試みとして、ヴィエンチャン県教育局内に「読書推進センター」を設けました。



ヴィエンチャン県の読書推進センター

センターは、各学校に対して次のようにして本を提供することとしました。

- ・ 記入済み貸出カード3枚と新しい本1冊を交換
- ・ 補修できないほど傷んだ本と新しい本を交換

続けて、チャムサック県、ボーケオ県、セコーン県でも本の交換活動に取り組み始めました。

今後、各校で積極的に新しい本に交換される活動が進むことを期待しています。

### スタッフの帰国報告会を開催

当会ラオス事務所に、2006年12月から赴任していた猿田由貴江が、ラオスでの任期を終え帰国し、2009年2月6日に東京・広尾のJICA地球ひろばで帰国報告会を行いました。

46名の方々の参加を得て、2年間の駐在で見えてきたラオスの社会の変化や子どもたちの状況とともに、プロジェクトについて報告。会場からは学校教育や読書事情などの質問が寄せられました。



## 子ども、先生と村人、親も本に親しめるように 「35 校出張プロジェクト」

2008年8月から2009年2月にかけて、「35校出張プロジェクト」を実施しました。教科書以外の図書がない（図書の活動を実施したことがない）学校を各県の教育局に選んでもらい、そこに当会が届けるといった活動です。2008年8月に南部のアッタプー県の5校、セコン県の5校、11月からヴィエンチャン都の25校の計35校で、それぞれ1校につき129タイトル計193冊の図書を届けました。

### ●先生に本の利用法を説明

学校へは会のスタッフとヴィエンチャンの学生インターンからなるチームで訪問します。図書を届けてすぐに帰ってしまうのではなく、図書の担当となった先生に向けて、本とはどういうものか、子どもにとってどんなよさがあるのか、という基本的な説明をします。なぜなら、先生にとっても本を手にするのは初めてという場合が少なくないからです。さらに、本は学校でどのように利用することができるのか、子どもたちに自由に読ませてもいいし、貸し出すこともできる、授業でも使えますよと、活用方法の説明もします。そして、スタッフとインターンとで、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌と踊りなど読書推進活動として各学校で行っている活動を紹介します。図書の貸出サービスのしかたを教えます。



絵本「大きなかぶ」を読み聞かせる  
(タケク小学校/ヴィエンチャン都)

### ●訪問者に戸惑う先生、子どもたちも

私たちは、村の人々や子どもたちの親などにも図書の利用を呼びかけ、皆に読書に親しんでもらえるように努めました。

訪問した35校のほとんどが、子どもも先生も、村人や親も、本にとっても興味を持った様子に感じられ、私たちは読書の普及が進んでいると確信することができ、とてもうれしく思いました。

しかし、訪問したいくつかの村では、活動を行うときも生徒や先生が恥ずかしがっていたり、人見知りをして活動と一緒にしなかったりという学校もありました。そういう学校は、再度訪問する必要があると思います。

このプロジェクトは地球市民財団の支援を得て実施しました。

(スックパンサー/ラオス事務所スタッフ)

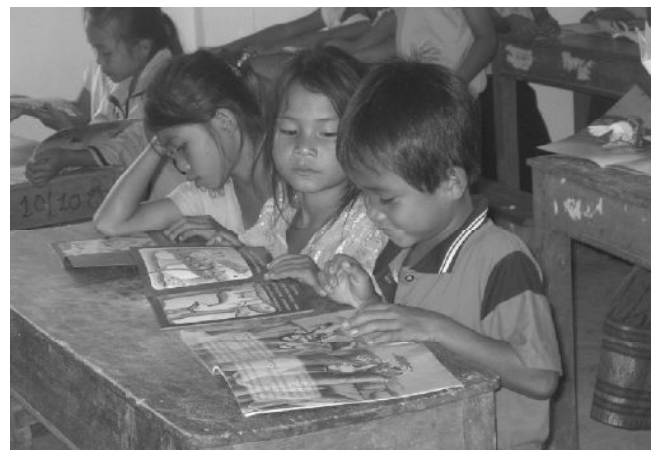


絵本の読み聞かせ。子どもだけでなく村人も参加  
(サイシー小学校/アッタプー県)

### ●ジャーナリストの入澤さんが取材

ウェブメディア『nikkei BPnet』内でコラム『国境を越える風』などに記事を載せている、ジャーナリストの入澤さんが、3月末「出張プロジェクト」、CEC、CCCなどの活動を視察し、会の現地活動取材してくれました。初めてラオスを訪れた入澤さんは、好奇心に溢れたラオスの子どもたちの笑顔に強い印象を持たれたようで、日経BPWEB「国境を越える風/The Wind Beyond Borders」で、現地からの報告を掲載してくれました。また、その前編として、活動の全体に関しても、紹介記事を書いてくれています。皆さん、一度アクセスしてみてください。http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20090324/140963/

この取材には、ラオス国営航空が協賛をしてくれました。



2校合同で実施。絵本を読む子どもたち  
(ファンデー小学校、カマコーン小学校/アッタプー県)

## 国内の活動・イベント

2008年12月～2009年3月

### イベント

#### ●第7回ワールドカルチャーフェスティバル 1/23 キッコーマンKCCホール／東京・西新橋 主催：キッコーマン(株)、花王(株)、アサヒビール(株)

企業社員を対象に、料理や民族衣装を通して、その国のことや世界の抱える問題について知ってもらおうと毎年開催しているイベントです。当会、幼い難民を考える会、ハンガーフリーワールド、民際センターが参加しました。

今年はレモングラスたっぷりのピンカイ（ラオス風鶏肉のオープン焼き）をつくり、ヤオ族、ラオトゥン、アカ族と鮮やかな民族衣装を紹介しました。初めて参加したという方も多く、多くの人々に会の活動を紹介できました。



#### ●「ラオスの織物の世界」 ～見て触れて使って楽しむラオスの布～ 1/15-20 ひらつか市民プラザ／神奈川県平塚市

6月に横浜のシルク博物館で開催したラオスの織物展示会が大好評で、また開いて欲しいという声があり、ここでは展示品に直接さわることができる企画として開催しました。

当会の共同代表チャンタソンが執筆した『ラオスの布を楽しむ』（発行：アートダイジェスト）で紹介した民族衣装の中から13点、そしてアンティークの布やねんねこブークなどを展示しました。「ラオスのこども」の活動を紹介するパネルや会が出版したラオス語の図書を展示するとともに、会のオリジナル商品や、チャンタソンが運営するヴィエンチャン郊外にある女性のためのホアイホン職業訓練センターの製品などを販売しました。遠方からの方もたくさん、会場に足を運んでくださいました。



（ご協力：三角節子さん、増田順子さん）

### ラオス語絵本

#### ○2/6 田園調布雙葉学園中学校／東京・田園調布 学習院女子大学の学生と事務局スタッフが田園調布雙葉学園 中学部を訪問しました。はじめに、生徒による事前調べ学習の

発表が行われました。続いて大学生によるラオスクイズと、大学生が滞在したラオスのノンヒンカオ村の暮らしをもとにした、「テレビがない生活って？」をテーマとしたワークショップ（参加型の学習）を行いました。ラオスの人々の暮らしをみんなで考えながら、日本の自分たちを見つめ直す時間となりました。



#### ○3/13 キッコーマン株式会社 中四国支社／広島市、 高砂工場／兵庫県高砂市

中四国支社では、絵本貼りイベントは初めてという6名の方が参加して、ラオスや当会の活動について、とても熱心に聞いてくださり、昼休み中に1人1冊のラオス語貼付絵本ができあがりました。

高砂工場ではご家族も含めて、17名の参加を得て、和気藹々と絵本貼りが進みました。1人1冊にとどまることなく、リピーターの方は2人で3冊と進み、ラオス語絵本が完成していききました。参加者からは「楽しく作業ができました。でもラオス語は難しそう。」との感想をいただきました。



#### ○3/17 住友商事株式会社／東京・晴海

今年で10回目をむかえた住友商事のイベント。終業後の時間を利用した活動はリピーターの方も多く、26名の参加がありました。

今回は、当会の絵本リストから選んだ50冊に加え、同社のある晴海トリンスクエアにちなんで作られたオリジナル絵本『イルカのトリン大地からのおくりもの』50冊が用意されました。

小グループごとに、絵本の話に花を咲かせながら、和やかな雰囲気の中で作業が進んでいきました。『イルカのトリン』作者、藤岡牧夫さんも、ボランティアとして参加されました。

参加した方からは「あまり接点のないラオスを知るいい機会になった」「仕事の後のちょっとした時間を利用して、こうした活動に参加できるのはいい」などの嬉しい感想が多数寄せられました。





## 国内の活動・事務局より

2008年12月～2009年3月

### 〈東京事務所の動き〉

- 12月  
12/12 戸田市立芦原小学校訪問学習受入  
12/14 運営会議  
12/21 理事会  
1月  
1/11 運営会議、勉強会  
1/15-20 「ラオスの織物の世界」開催〈平塚〉  
1/23 第7回ワールドカルチャーフェスティバルに参加  
2月  
2/6 田園調布雙葉学園・絵本づくり体験授業  
スタッフ帰国報告会  
2/8 理事会、運営会議、勉強会  
3月  
3/8 運営会議、勉強会  
3/13 キックマン(株) 中四国支社・高砂工場でラオス語  
絵本づくり  
3/17 住友商事(株)でラオス語絵本づくり  
3/22 JBBY社団法人日本国際児童図書評議会より顕彰  
3/28 ピーマイパーティ新メニュー試作会  
※HA =ハックアーン (学校図書室) CCC =子ども文化センター

### 〈ラオス事務所の動き〉

- 12月  
12/8-9 HA176 開設〈ヴィエンチャン都〉  
12/12 ラオスで活動する日本のNGOの会合に出席  
12/13 猿田本帰国  
12/16-18,23,25 出張活動〈ヴィエンチャン都〉  
12/29 JADDO スタディツアー受入  
1月  
1/1 出張活動〈ヴィエンチャン都〉  
1/9-11 ラオス国際教育フェアに参加  
2月  
2/5-6 ラオス政府と国際NGOの全国会議に出席  
2/3,10,12,13,16,17,18,19 出張活動〈ヴィエンチャン都〉  
2/9,11 学習院女子大学スタディツアー受入  
2/25-28 HA183-HA184 開設〈サワナケート県〉  
3月  
3/2-5 HA181-182 開設〈エャムパサック県〉  
3/11-13 HA185-186 開設〈ルアンパバン県〉  
3/14 ルアンパバンCCC訪問  
3/17-20 第2回ラオス語教授法改善内容検討会議〈ヴィエン  
チャン都〉

## 会計業務の改善に向けて

JICAの「NGO組織強化のためのアドバイザー派遣制度」によって、1月から3月にかけての7日間、公認会計士矢崎芽生さんの会計業務の指導を受けました。目的は、会員や寄付者の方に、お金の出入りの説明が適切にできること（アカウントビリティが果たせる会計処理）、活動を安定して行うための収益事業について税務申告が適切にできること、認定NPO法人格取得に向けた会計処理ができるようになることです。

証憑（見積書、請求書、領収書など）の整理のしかた、会が出版した本の棚卸の方法、外貨会計の為替基準のとり方、収益事業の記帳方法、財務諸表や税務申告書の作成などを学び、会が行っている会計業務について、経理規程を文章化すべきと指摘されました。仕訳や記帳の方法を改めて勉強し、改善すべき点がさまざまあることに気づかされました。経理規程の作成から業務の改善を進めていきます。

（風間美苗／会計担当）

写真家押原譲氏の写真で作成したラオスの子ども「2009カレンダー」は、皆さまのご協力により、約700部を販売することができました。ご購入下さった皆さま、ありがとうございました。2010年版カレンダーの作成も予定していますので、どうぞご期待下さい。

## NGOネットワーク

～NGOの実践をもとに

「子どもの参加を促すガイド」を作成～

ラオスの子どもが参加するJNNE（教育協力NGOネットワーク）は、「子どもの参加を促すガイド」（日本語版・英語版）を作成しました。スラムの地域改善に子どもが担い手となって意思決定に参加しているバングラデシュの事例や、児童労働をさせないで学校に行かせるように子どもたちが大人を説得してまわっているネパールの事例など、NGOの取り組み経験をもとにまとめ、ガイドとしたものです。

地域開発や就学率と教育の質向上の取り組みに子どもの参加を促すには、それを阻もうとする大人の意識をいかに変えるかが大きな課題です。大人の気づかない視点で地域開発を提案したり、子どもの実力を見せつけることで、徐々に大人がパートナーとして認めていきました。それらの取り組みの中で、日本のNGOは地元のNGOを支援する立場をとっています。

ラオスでは地元のNGOの設立は認められていませんが、CCCなどの活動では、講座を子どもが評価する子どもの参加が進められています。私たちが意識を変え、子ども参加が進むように図っていききたいと思います。

（森透／共同代表）

